

Vol.002

## 色々な人のキャリアを

キャリアアップを目指す人へ

公的機関又は一般企業 編

聞いてみよう!



支えてもらった経験を次の世代に繋げたい。  
子ども3人を育てながら歩んだ校長への道。

三島市立山田中学校 校長 高橋都貴子先生

### プロフィール

- ・大学卒業後、三島市内の公立中学校に就職し、市内や近隣の公立中学校を赴任した後、教育事務所へ入りました。その後現場へ戻り教頭先生を経て現在の山田中学校校長として活躍されています。
- ・家族構成：会社員の夫、お姉ちゃんと双子ちゃんの娘3人



三島市立山田中学校

### Q1. 教職を目指したきっかけを教えてください。

教員になりたいと思ったのは、出会った女性教員の影響が大きかったと思います。小学校の女性教員は優しさの中にも、厳しさがあり、人として大切なことを教えていただきました。また高校の数学の教員が女性で、その先生のおかげで数学が好きになり、もっと追求してみたいと感じ教員を目指しました。

教職のなかでも中学校を選んだのは、**自分が興味を持った数学の専門性を追求したい**ということ、そして様々な行事を生徒とともに作り上げるということを通して、感動を味わいたいと思ったからです。**生徒の人**

生の先輩として、進路を決定するにあたって、背中をちょっと後押しするようなことができたという思いがありました。



校長室にて

### Q2. 家庭を持った時や出産後に仕事を継続するために家族と考えたこと、ルールなどありましたか。

夫婦で互いにずっと仕事をしたいという話はしていたので、共働きでやっていこうと考えていました。夫は仕事を続けることに理解があり、むしろ、続けてほ

しいという感じでしたので、家事についてもどちらが何をしようとかという、明確なルールを特に決めず、気づいた方がやっていました。朝は私の方が早く出るので、保育園の送りを夫がやるとか、洗濯は私がセットをして干すのは夫がやる、というように自然に役割分担ができていました。土日は夫が仕事に行くため、私は部活動の顧問をはずしてもらおう等配慮してもらい、子供の習い事や平日の家事でやれてなかったところをやっていました。土曜日に自分が出勤しなければならない時は、夫が代わりにやるというように自然に分担ができていたと思います。それは、**お互いに仕事を続けたいという気持ちがお互いに理解できていたから**だと思います。



仲良し3人姉妹

### Q3. お子さんを出産された後の復帰ではどのように両立をしていましたか。工夫などあれば教えてください。

教員になって3校目の中学校では、6年間の勤務のうち5年間学年主任が変わりませんでした。学年主任は理解があり娘のことで休みを取る時は教室に入ってフォローしてくれました。娘たちが運動会を見に来て一緒に応援したり、生徒たちと写真を撮ったりすることができたのも、やはり学年主任のおかげだったと思います。下の娘が1歳から7歳までの間の勤務であったため、1番大変な時期に常にフォローしていただきました。

娘3人を保育園に預けて働かなければならないというところで、復帰するにあたっての不安はありました。辞められるものなら...と思うこともありましたが、夫も一緒にやるから頑張ろうと言ってくれましたし、

両親も「困ったときはすぐ手伝うから、頼りにして」と言ってくれたことが大きかったです。不安な気持ちがあったけれど、もう少し頑張ってみようと思いました。でも、生徒指導やトラブルが起きて対応がうまくいかない時は、やはり悩みました。そういった時に、追い込まれないように、追い詰められないように、誰か相談ができる人が職場の中にいると違うと思います。



教え子と子どもたち

### Q4. 家と仕事のバランスに関して自分で気にしているところは？特にお子さんとの向き合い方はどうでしたか

娘たちが生まれる前にやっていた量の仕事はできないと、割り切っていました。例えば学級通信の発行については、子育て中に同じことをするのは厳しいため、週1回程度に減らしました。その代わりに生徒たちとは話を沢山するように心がけたり、時間外勤務ができない分、勤務時間内で生徒のためにできることを考えたりしました。

それでも生徒指導などで悩んでしまうことはありました。家に悩みを持ち帰ってきて、暗い顔をしている



家族でお花見に！

のは母親としてよくないと思っていたため、きちんと娘たちに向き合って過ごすことを意識しました。どうしても仕事をやらなければ回らない時は、主人に娘たちを外に連れ出してもらい、その間に集中して終わらせるようにしていました。

娘たちが小さい間は双方の親が元気だったため、病気等で保育園に預けることができない時や平日に自分が帰宅するまでの間、娘たちだけでいることがないように、サポートしてもらっていました。

## Q5. 仕事を続ける意欲やモチベーションは何でしょう？

モチベーションは感謝されることです。生徒から「このクラスで良かった」「先生のおかげで、高校に入れた」と感謝されると、もう少し頑張ろうという気持ちになりました。

娘たちが親の背中を見て、「お母さんのような教員になりたい」と思ってくれた時期があったのはモチベーションが上がりました。

当時は忙しくて、きつく当たってしまう時もあったので反省したこともありましたが、そのような母親の姿を見ても「教員になりたい」と言ってくれたのは嬉しかったです。



体育の部でのあいさつ

## Q6. 学校の中で責任ある立場に進むにあたって考えたことはありますか。

教員のキャリアの進め方にはいろいろあります。学年主任や教務主任を経験する人もいますが、私はそのような主任の経験がないまま、管理職となりました。キャリアアップに関しては選択肢はなく、**新しい環境で頑張るしかない**という気持ちでした。



校長室入口

## Q7. 上司・同僚に対して一緒に仕事をする際に意識する事、意識してもらいたいことは？

校長としての目標は、生徒たちが安心して学校に来ることができ、楽しい学校生活を送れることです。そして、それを支える教員が何よりも健康でなければいけない。教員が笑顔でいないと生徒たちも笑顔にはなれないと思っているため、職員が**気持ちよく働けるようにすることが私の役割だと考えています。**

やはり一人で抱え込まないで「困っている」ということを伝え、「こうしてほしい」と要望をはっきりと言ってもらえることで、妥協策を提案できると思います。

ちょっとした時にたわいもない話をする事で、関係性を作り、元気がない時には、さりげなく声をかけるようにしています。



職員室にて打ち合わせ

## Q8. 後に続く方たちへアドバイスがあれば。

大変な時にいかに協力してもらう人を増やせるか、困っていることを周りに伝えられるかというのが、大事だと思います。

「ひとりで抱え込まないでやっていただきたい」ということは、1番伝えたいところです。

## 【まとめ】

小学校・高校で出会った先生たちから色々な影響を受けてご自身も教員として現場にいらっしゃる高橋さん。

仕事をずっと続ける気持ちでいることを、家族・親・職場の皆さんが理解をして協力してくださる、と仰っていらっしゃいましたが、皆さん現場で頑張る高橋さんを見ていたからこそその理解だと思います。努力を続けている方には周りも応援したくなります。

キャリアアップをすることは、自分で選ぶというより選択肢が無くやるしかない、というところが教職の厳しさを感じますが、自分の役割を理解して何が大切かを見極め、自分なりのやり方を見つけて工夫をしていくことはどのような職でも必要なことだと感じました。